

塘研究室現地調査報告

5月12日に裏磐梯にて今シーズン最初の現地調査を実施しました。調査者は塘研究室の4年生、大学院1年生、教員の3名で、日に焼けるくらいの良い天気でした。調査内容は桧原湖畔探勝路付近のニチレイ社有地内の池でのヒメシロカゲロウ属の一種の採集（大学院1年生）、今年度から裏磐梯での調査を予定している地表徘徊性甲虫類の調査地の選定（4年生）、そして裏磐梯地域での *Mundochthonius* 属の土壤性カニムシ類の採集（教員）でした。

桧原湖畔探勝路はまだ所々に残雪がありましたが、ニチレイ社有地内の池周辺には雪はほとんどなく、雪解けのためか各池ともに水位が上がり、浮島になっているヨシ原のあちこちにも水溜まりが生じていました。目的のヒメシロカゲロウ属の一種の幼虫も採集でき、池1でのオオトラフトンボや池2でのクロゲンゴロウなど、この場所の池沼からは初記録となる水生昆虫を確認することもできました。池1のヒルムシロ類や池2のジュンサイなどの水生植物はまだほとんど見られず、春はもう少し先といった印象でした。

地表徘徊性甲虫類の調査地は噴火の影響の有無や植生の違いなどに対応させて、候補地を絞りました。次回、もう一度予備調査を実施した上で調査を始める予定です。

Mundochthonius 属の土壤性カニムシ類は裏磐梯地域から記録されている2種を桧原湖北部金山のミズナラ林から得ることができました。また、曾原湖畔探勝路付近のブナ・ミズナラ林からは *Allochthonius* 属の土壤性カニムシ類も2種を得ることができました。

裏磐梯はちょうどミズバショウの見頃を迎えており、桧原湖の西岸の群生地では多くの観光客が写真撮影をされていました。各種の桜もまだ充分に見ることができ、調査とともにちょっとしたお花見を楽しんできました。



路上に雪が残る桧原湖畔探勝路



ニチレイ社有地内の池2



ニチレイ社有地のミズバショウ



桧原湖と磐梯山